

織田信長の甲州攻め



勢力を失う「武田氏」

1573年に武田信玄が死去すると、跡を継いだ子・勝頼も徳川氏の領国を攻撃し、城を次々に攻め落としてきました。

しかし、1575年、織田信長と徳川家康が、長篠(愛知県新城市)の戦いで、勝頼を破ると、織田氏と徳川氏は勢力を盛り返していきました。



武田氏と徳川氏の攻防

遠江国を平定^{※1}しようとする家康に対抗するため、勝頼は、遠江国の交通の要である高天神城(掛川市)を直接支配し防衛を強化しようとして、城主・小笠原信興^{※2}を富士郡(富士宮市一帯)に住ませ、柚野などを支配させました。

1581年、家康が高天神城を攻め落としたことにより、重要な家臣が離反^{※3}するなど、武田氏は大きく勢力を失いました。

- ※1 敵を圧倒し、平和をもたらすこと。
- ※2 もとは徳川氏の味方であったが、勝頼に城を奪われてから、武田氏の味方となった。
- ※3 裏切り寝返ること。



武田氏の滅亡

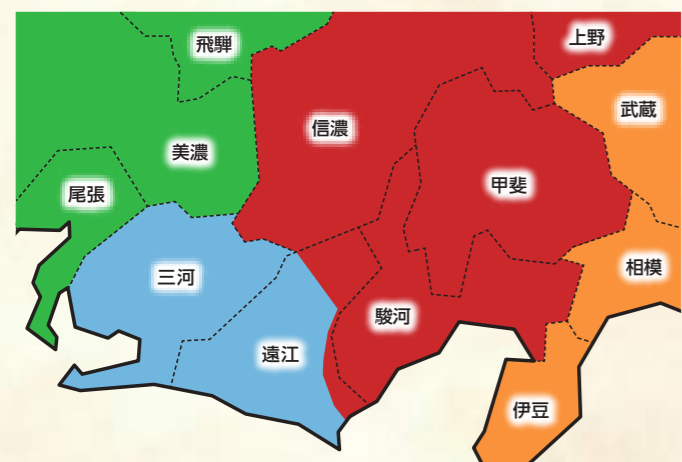
1582年、信濃国の木曾義昌^{※4}が、武田氏を裏切ったことをきっかけに、信長は子・信忠を総大将として、家康や北条氏政と協力して武田氏を攻撃することを決断しました。

2月、織田氏は信濃国から甲斐国を攻め、徳川氏は駿州往還を、北条氏は中道往還を通して、甲斐国へ軍勢を進めました。このとき、北条氏は駿河国の三枚橋城(沼津市)や深沢城(御殿場市)などを制圧したほか、大宮浅間神社(富士山本宮浅間大社)から本栖までを焼き払ったといわれています。

3月、家臣の離反が続いた武田氏は、攻撃に耐えきれなくなり、ついに戦国大名「武田氏」は滅亡しました。

※4 信玄の時代から武田氏に仕えた信濃国・木曾谷の武将。正室は信玄の娘。

甲州攻めの頃の勢力図



- 武田氏の支配地**
 - 甲斐(山梨県)
 - 信濃(長野県)
 - 駿河(静岡県東部・中部)
 - 上野(群馬県)
- 徳川氏の支配地**
 - 三河(愛知県東部・中部)
 - 遠江(静岡県西部)
- 北条氏の支配地**
 - 伊豆
 - 相模(神奈川県西部)
 - 武蔵(東京都・埼玉県)
- 織田氏の支配地**
 - 尾張(愛知県西部)
 - 美濃(岐阜県)
 - 飛騨(岐阜県) など



「長谷川角行」と「徳川家康」

人穴で修行した「長谷川角行」

江戸時代、富士登山によって家族の安全や幸せが約束されると考える「富士講」という組織が生まれ、江戸を中心に流行しました。

人穴は、富士講の開祖とされる長谷川角行が、戦国時代の終わりから江戸時代の初めに、厳しい修行を積んで悟りを開き、106歳の時に亡くなった場所で、駿河国と甲斐国を結ぶ中道往還沿いに位置しています。

角行は、白糸の滝で身を清めた後、溶岩洞穴*「人穴」に入り、4.5寸(13cm程度)四方の角材の上につま先立ちで立つ修行を1,000日間続けたといわれています。

*富士山の噴火で流れた溶岩の表面が冷えて固まり、内部の溶岩が流れ出て空洞になったところ。



角行に助けられた「徳川家康」

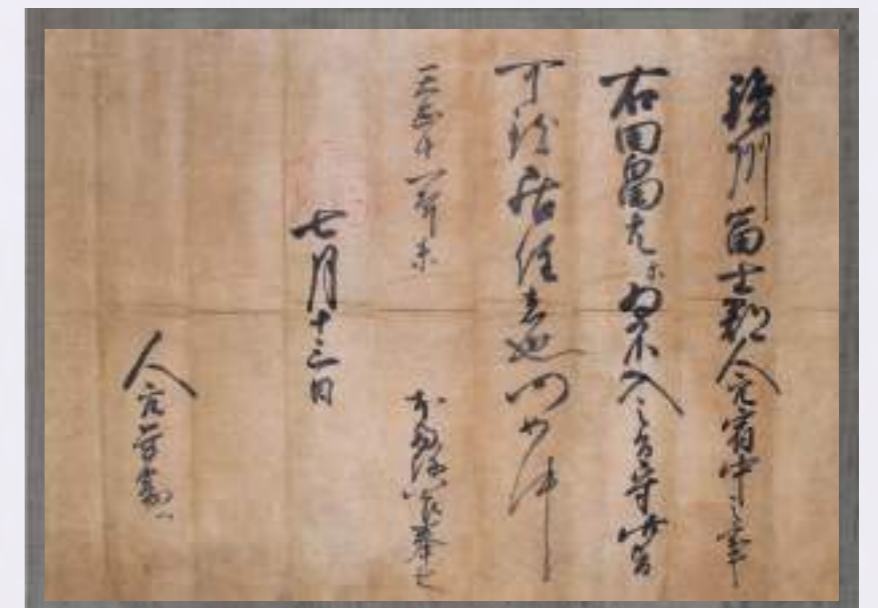
角行の伝記には、「家康は、武田氏の軍勢から逃げる途中、人穴を発見し、修行中の角行に助けられた。翌年、家康は人穴を訪れ、お礼に、人穴村のさまざまな税金を免除した。」などの内容が書かれています。

家康は、1583年、人穴村の田畑の調査や、税金の徴収を禁止した朱印状を発行しました。

人穴の内部には、富士山信仰に関連する石仏や碑塔、修行者が立てたろうそくの跡などが残っています。



溶岩洞穴「人穴」



▲徳川家康朱印状(1583年7月13日/個人蔵)

どうなる家康 「三カ国を支配」



38歳頃

1579年、子・信康と妻・築山殿が武田勝頼と内通しているという疑いをかけられ、信康は二俣城(浜松市)で自害に追い込まれ、築山殿は佐鳴湖畔(浜松市)で殺害されました。



40歳頃

1581年、家康は、「高天神城を制する者は遠江を制す」と言われるくらい、重要拠点に建てられた高天神城を勝頼から奪還しました。



41歳頃

1582年2月、織田信長は、家康や北条氏政と協力して甲斐国へ侵攻し、3月11日、田野の戦いに敗れた勝頼は自害し、武田氏は滅亡しました。



4月、甲州攻めの褒美として、家康は信長から武田氏の領地となっていた駿河国を与えられ、遠江国・三河国を合わせた3カ国の大名となりました。

織田信長の甲州攻め



織田信長の「富士遊覧」

信長は、甲州攻めにおける戦いで活躍した武将に対し、武田氏の領国であった甲斐国・信濃国・駿河国・上野国などを与えました。

これにより家康は、三河国・遠江国に駿河国を加えた3カ国の大名となりました。

戦後処理を終えた信長は、家康の案内で、富士山を見物しながら、中道往還や東海道を通り、近江国(滋賀県)の安土城へ帰りました。

このときの様子が、「信長公記」に書かれています。

※信長の家臣・太田牛一が記した信長の一代記

信長公記に書かれた「富士遊覧」

信長一行に同行した家康は、道の掃除をしたり、宿泊所や休憩所(茶屋)を建てるなど、手厚く接待した。

4月10日、一行は甲府を出発し、11日、本栖湖に宿泊した。

12日、冬のような寒さの中、鎌倉時代に源頼朝が「富士の巻狩」を行った朝霧高原で馬に乗り、富士山を見物した。白雲のような雪が積もった富士山の姿は、とても珍しい名山であった。信長は、人穴を観光したほか、白糸の滝など頼朝ゆかりの地についてさまざまな質問をした。家康は、大宮浅間神社(富士山本宮浅間大社)内に金銀を散りばめた部屋を用意し接待したため、上機嫌となった信長から、刀や馬などが贈られた。

13日、富士川を渡り、三保の松原などの名所を巡りながら、21日、安土へ帰った。



ゆかりの地



朝霧高原
甲州攻めの後、信長は源頼朝が富士の巻狩を行ったこの地で、家康と馬に乗り富士山を見物したといわれる。



人穴
甲州攻めの際、逃げる家康を修行中の長谷川角行が助けたといわれる。富士遊覧の際、家康は茶屋を建て信長をもてなした。



井出館(井出家高麗門・長屋)
富士の巻狩の際、周辺に源頼朝の宿舎「富士野神野御旅館」があったといわれる。



白糸の滝
富士の巻狩の際、源頼朝があまりの美しさに和歌を詠んだといわれる。頼朝ゆかりの地として、信長が詳しく尋ねた。



富士山本宮浅間大社
武田氏の奉納品が数多く残るほか、富士遊覧の際、家康は金銀を散りばめた部屋を用意し、信長をもてなしたといわれる。



富士見石
富士遊覧の際、信長がこの石に座り、富士山を眺めたことが、隣の道祖神の左側面に彫られている。